

福祉環境委員会記録

令和3年3月18日（木）
12時58分～14時46分
全員協議会室

【委員】柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議長・委員外議員】

【事務局】中谷書記

議題

1 取組課題「子育て支援について」（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

(開 議 12時 58分)

柳楽委員長

ただいまから福祉環境委員会を開会する。本日の委員会は先日議長なんでもメールに、配信している委員会映像の音声聞き取りにくいときがあるとの意見があったことから、録画設備がある全員協議会室を使用することとした。今後も可能な限り全員協議会室で開催することとなると思う。

1. 取組課題「子育て支援について」(委員間で協議)

柳楽委員長

議題1について皆で意見交換をしていきたいが、先日皆から提出いただいた「今後の進め方」と「追加テーマ」について、まず今後の進め方について意見交換を行いたい。各委員から出していただいた意見はタブレットに載せている。

岡本委員

それぞれ書かれた意をお話しいただきたい。

柳楽委員長

各委員に思いを言っていただきたいとの意見が出た。その形でよいか。

(「はい」という声あり)

では資料にある順にお願いします。

沖田委員

今後の進め方についてはアイデアは特にない。強いて言えば追加テーマについて、学校給食無償化を取り上げた。できるできないはあろうが一度議論してみたい思いがあるため、ここに上げた。

今回3月定例会議でも結婚祝い金と出産祝い金の施策が打ち出されたが、現役子育て世代としてはある程度継続した支援が一番ありがたい。学校給食無償化は実施している自治体は限られるが、賛否両論あると思う。学校給食無償化は、浜田市の現状を踏まえると必要だと私は思う。それゆえに委員会で機会があれば話したい。

村武副委員長

追加テーマを4点上げさせてもらっている。改選までの間には、それほどたくさんすることはできないかもしれない。

今後の進め方にもなるが、子育て世代包括支援センターについて今までも議論してきたが、そこをもう少し深めていって要望か提言につなげていけばよいと考えている。

追加テーマのところに子育て支援団体の支援と書いている。子育て世代の支援は、行政主体ではなく市民意見が反映できることが大切だと思っているので、そのためには子育て支援団体を市民がつくり、それを行政の施策に反映することが大切なのではないかと日ごろから考えている。子育て支援団体への支援も、もしかしたら子育て世代包括支援センターの中に入れることができるかとも考えている。

子育ての地域支援というのは、支援センターの中にはなかなか入らないかもしれないが、やはりまちづくりセンターが今後できる中、

地域で子育てする仕組みなりをしっかりとつくっていく必要がある。

3番目の子育て相談窓口コンシェルジュの設置は、この前の一般質問でも取り上げたのだが、相談体制の強化で子育て世代包括支援センター内に入れられると考えている。

4番の働きながら子育てしやすい環境づくりも、その中に多少なりとも入れることができるかと考えている。

柳楽委員長

皆思いがあって追加テーマのところも話してくれるので、進め方と追加テーマ両方言っていたきたい。

小川委員

今の段階では政策提言を目標にしながらもそこまで詰めた議論や認識はできてないように思う。一定程度時間をかけて議論したものとして政策提言を出すのは形としては一番よいが、そこまで行き着いていないものを無理に出す必要もないのでは。中身が充実していれば短い提言でもよいが、今の段階ではそれに至ってないと考えるため反対である。

提言にするためには、福祉環境委員会としての論点整理が必要だと思う。人口減少や出生数減少の原因・背景の分析、これが続いた場合は今後どうなっていくのかきちんと予測した上で、国・県・市の支援策がどうか、この部分が不十分だから市長へこういうことを求めるのだというものははっきりさせる作業は必要だが、そこまでできてないのが現状だと思う。

そういう議論を通して最終的に共通認識をつくった上で、委員外議員に対しても自信を持って提言を訴え、議員全体の合意形成にも努力する。その一連の過程が必要ではないかと思う。

そうしたときに、テーマにも関連してくるが、当委員会で議論してきた中で言葉として出された「子育て支援条例」や「給食費無料化」については研究・検討してもよいと思っている。「子育て支援条例」は既に制定している自治体も結構ある。それらを取り寄せて比較検討する中で、やはり浜田市もつくっていこうという機運が高まれば、時間の許す限り最大限努力して条例化できればそれにこしたことはない。そこまでの議論が煮詰まらなかったということで断念せざるを得ないかもしれないが、一つのテーマとしてはよいと思う。

給食無償化も支援策の一つだと思うが、これも両論ある。これは当委員会でも全く議論してない。なぜ反対か、なぜ賛成かということもきちんと議論することも子育て支援策を考える上で重要だと思っている。

この間要望書として上げたこと以外で残っているのが三つくらいあるが、これもせつかくまとめてあるので、この部分は別枠で、要望書第2弾として市長へ提出するのも一つの考えではないかと思った。

岡本委員

我々の任期まであと半年しかないため、着地点を定めておいて進めるべきだろう。追加テーマ等々の話もあるが、要望の形での提出でよいのではないかと考えている。

佐々木委員

追加テーマについては、今ちょうどコロナの問題が出ておおむね1年になる。子育て世代へのコロナ禍の影響を調査し、それに対する提言できる支援はないか考えてみたらどうか。具体的には四つほど書いたが、就労環境の変化はないか、未就学児・幼稚園児・保育園児・小中学校それぞれにおいて何か悩みがないか、受け入れ態勢はどうなのか、環境や医療関係の悩みはないか、近隣等住民環境の悩みはないかなど、スポット的に追及していく。調査の結果からの支援という形がよいのではないかと思い、追加テーマとして上げた。

今後の進め方については前も委員会で言った記憶があるが、これまで調査する中で問題意識を何点か皆で共有しているが、それプラス先進事例や市内の現場状況も含めて、あるいは専門的視点からの見地・状況などを伺うなど、広く我々も認識した上で協議していったらどうか。まず今後そういうことをやるべきではないか。

テーマについては今回上げてないが、皆の発言を聞く中で私も前から思っていたことを述べさせていただく。

一つは給食費無償化。義務教育や幼児教育については元来子どもが育てやすい環境づくりが大きなテーマだと思っている。古くは義務教育の教科書が無償化になった。近年では幼児教育の無償化。それに続いて給食費無償化の流れも子育て支援の観点では大きなテーマではないかと思った。

また、コロナ禍における子育て。浜田市もひとり親支援をしているが、現場の皆さんはかなりいろいろな影響を受けているが、声なき声を聞き取れていない。コロナがずっと続くわけではないと思うが、生活に与える影響が大きいので、コロナ禍における子育ての課題と対応策なども少し研究して、提言や要望することも必要ではないか。

この2点をテーマとして思っている。

田畑委員

①子育ての地域支援。来年度には子育て世代包括支援センターが完成して松原の施設がなくなる。委員会で視察に行った三隅のおひさまや日脚保育園、あさひこども園、そして野原にできる支援センター。浜田の支援センターはアクセスが非常に悪いし、子どもの人数も多いので、地域支援をしていかねば1か所にまとめて皆にここへどうぞという施策は、あまりよろしくないと思っている。国府に一つ、金城に一つなどの形をつくったほうが、地域としての子育て支援がよりできるのではないかと思っている。

それと、これは大田市役所を視察した際にやはり子育て世代が雨天でも利用できるフリースペースが必要だと思った。各旧市町村単位に一つずつではなく浜田市に1個あればよい。見方によっては2か所あれば十分だと思う。大きなお金をかけずとも物事がスムーズにできると感じている。

給食費無償化というのが出ているが、私は個人的には無償化にあまり賛同できない。食べたもののお金は自分で払う、そして食を大

澁谷委員

事にするという意味でも、完全無償化はどうかと思う。

基本的に子育て支援の中で一番重要なのは相談体制、孤立感を解消することが一番だと思っていた。先般も3人の子どもを道連れに自死されたという報道もあったが、その前に手厚い相談体制で寄り添えていれば亡くならずに済んだのではと思う。

子育て世代が貧困であることが一番の原因ではないかと思っている。先進国の中で、日本は15%が貧困家庭だと言われているが、浜田市の現状を見ると子育て世代の貧困率は20%を超えており、4人に一人が貧困家庭である。生活保護の方が1%未満であるのに比べれば圧倒的に子育て世代に貧困家庭が多いという結果になっているので、それがネグレクトやDVなどいろいろなことに派生しているのでは。この世代を手厚く支援しなければならないと思っている。

ただ今回は一番重要である相談体制の中で、執行部が子育て支援アプリ一つ前向きでないような自治体に、何を提言してもなかなか難しいだろう。相談体制を充実していったら、子育て支援は最後は現物支給的になりやすい。学校給食無料化は大阪でも何百億円かけて始めようという時代である。浜田でできないことはない。中学校を無償化して6千万円、既に二十数%の方が無料になっているが小学生まで広げていくと1億2千万円かかって、トータルで1億8千万円かかるのだが、そのくらいのことをしないと浜田に住んでよかったということにならないだろう。先進自治体の状況を見ると、給食費無償化が一番メインの子育て支援だと僕は思っている。

また子育て支援条例をつくっている自治体ほど子育て支援に熱心だと思ったので、やはりこれは必要だと考えていたが、あと半年しかない。障がいのある方に対しての子育て支援とか、いろいろ専門家の意見を入れなくてはいけなくなって、審議会を立ち上げないといけぬ。そうすると議会が審議会を立ち上げるなどどこからお金を出すのかという問題も出てきて、予算がないだけに半年間では無理だと今は思っている。

この間、正副委員長から申し入れをしていただいたので僕はあれでよいかという感じがしないでもない。提言書となると、全国の議会の事例を見るとそれなりの情報収集と提言の厚みがあるが、申し入れなら割とハードルが低くなるので。申し入れとしてこの中の意見がまとまっていけば。予算執行権がない中でのプラスアルファの政策というのは非常に苦しい。

今回の子育て支援センターも、設計は浜田以外の方と専門家だとして随意契約したのだが、その割に今の図面は全く先進的でないことがっかりしている。実物を見るとまた印象は違うかもしれないが、今の感じでは平凡なレイアウトのようで残念な気がしている。

柳楽委員長

私の意見だが、今後の進め方について、ここでは一応これまで議論してきた残りの3項目については引き続き深めていきたい。ただ、議員の任期まであまり時間がないので、あれもこれもというのはな

かなか難しいという思いもある。逆にどれか一つに絞ってそこをしっかりと掘り下げてやっていくこともあるのかなと思っている。

追加テーマとしては、発達障がい早期発見で療育につなげる支援。ずっと前から西部全体でも発達障がいの専門医が不在ということで、なかなか診療を受ける機会が確保できていない現状がある。県や国にも要望をしておられるようだが、実現が難しいとは思いますが、それにかわるものを行政は考えるべきだと思うので、追加テーマとするならそのあたりかと思っている。

皆から今一通り意見をいただいたが、まず政策提言の形ではなくても要望でもよいのではというご意見もあったし、短くても中身のしっかりした提言ならそれでよいのではという意見もあった。今後政策提言として進めていくことについて、皆はどうか。一応方向性は政策提言ができるようなものにしていくための進め方をしていくのか。

岡本委員

皆の意見を聞いたときに、政策提言という位置づけには感じなかった。政策提言を頭に置くとなると、より深い調査をしないといけないといったことがあると思うので、ここは方向転換して要望の形、それもただ空論だけの要望ではなく実態調査に基づいたやり方をしないといけないと思う。

給食費の問題はそれほど簡単なことではないと思っている。貧困という位置づけも私は非常に懐疑的である。準要保護の支給状況も、私は主任児童委員をやっていたが、昔は主任児童委員が関与していた。今は学校に申請すれば全て通る。本当に貧困なのかと実は思っている。そういう実態調査をした中で物事を打ち上げていかないと、議会の調査能力が問われる。そういうことをやるにせよ少し入り込んで、相談も含めて、要望という形で。コロナ支援も要望という形がよいと私は思っている。

柳楽委員長

今はなかなか提言の形は難しいのではということだが皆はどうか。要望という方向で考えていき、議論の中で政策提言としてでもできるものになれば、提言という形で。

澁谷委員

政策提言には否定的なことを言ったが、政策提言をつくるくらいでないときちんとした要望もできないだろうと逆説的に思っている。半年間でできなくても常任委員会でそれなりの形のものを申し送ってもよいので、ある程度煮詰めて勉強して、先進地視察などいろいろなことをしながら、政策提言に近い形ものは練り、議論していく価値はあると思う。着地点としては申し入れの形に落ち着くかもしれないが、申し入れとしてスタートを切ると、懇談会など開いて聞いた意見をそのまま言うだけで終わってしまわないか。議論や調査、分析をするということから遠ざかる気がする。

田畑委員

政策提言にするか要望にするかは、最終的な結論が出てからのことであって、まず目的は政策提言するというスタートで進め、そうはいつでも半年しかない時間で、例えば一番多かった給食費無償化

となると、予算がついてくる。ほかの自治体など調べて用意周到なことを考えて詰めていかないといけない。そうなる最終的に提言はできるかもしれないが予算の問題が必ずついてくるので、次の委員会に申し送るのかどうかまで考えてやっていかないといけない。特に給食費のことをやった場合、かなりの予算が必要になってくる。ほかの保育、幼児教育、小学校教育、中学校教育、全て無償にするならなおさら予算を考えつつ進めないといけない。

そのほかに少ない金額でできるものがあると思えば、それも頭の片隅に置きながら議論していったほうがよいのでは。大きな予算が伴えば伴うほど提言だけに終わらないかを感じる。

澁谷委員

提言となるところこういう無償化などは提言できない。あまりにも空論になって、執行権のない者の夢物語みたいになる。無償化を申し入れるには高校生までの医療費にしても、全て財源がかなりかかるような、議会側にもよほどの委員会以上のコンセンサスがないと。言うのは簡単だが見識を疑われかねない。予算編成権のない議会の限界もある。それ以外の知恵を出した政策提言の形になるだろう。

柳楽委員長

今も意見があったが、政策提言として進めようと思ったらやはり項目は絞ったものでないと、この任期中には難しいかと思う。次の委員会に引き継ぐという声もあったが、できればこの委員会の皆で形にできればよい。そうなる項目をどう絞っていくかだが。

岡本委員

全ての項目が何らかの形でかわりを持って研究していかないといけない。それが提言につなげるために今やるのか、その先かということ。一番我々が取り組んで、実態も知りたいと思っている、コロナがどのような影響を及ぼしているのか、これは福祉にかかわらず全てに共通していることだろう。少なくとも我々は子育て世代にスポットを当てているのだから、そこについてはしっかりアンテナを張り、相談なりミーティングなりをして、それを抜き出すことは、もっと先々に望める政策にも展開できるものだと思う。まず我々が行動できるところでは、コロナの位置づけで皆にかかわっていく、聞いていくというのが一番やりやすいのでは。浜田市に限らず、例えば中国管内の視察なら、その地域がどういう政策を立てているかを聞くのも一つの手だと思っている。私はこのことについて再度提案させていただく。

柳楽委員長

コロナの影響が続いている中なので、そこに視点を当ててどういった支援が必要とされているのかの調査や、先進自治体がどういった支援をしているのかの研究をしてはどうかということだが、それについてはいかがか。

澁谷委員

結果的に皆にこういうことをやろうと投げかけてもらって、それを議論して、やはり最後は正副委員長に絞り込んでもらうしかないのでは。昨年の高齢者の認知症は、西村議員が積極的に進めて、それを正副委員長が支援して皆がまとまっていったから、ほかの常任委員会が政策提言に至らなかった中、ここだけできた。そういう実

績が正副委員長にある。最後は正副委員長のリーダーシップで決めていただかないとよい形にはならない。その気にならないものを無理に進めてもまとめられない。

岡本委員

私もそのとおりだと思っている。正副委員長がある程度検討されて、それについて我々が同じ方向を向くように進めてほしい。

ただ、今までのように一度決めたものをまたひっくり返すようなことはやめよう。正副委員長で、今出たいろいろな意見を精査してもらって提案していただきたい。

柳楽委員長

最終的には正副委員長で決めてという話だった。振り返ってみると、皆から最初に意見をいただき、その中で皆がやはりこれが大事だと思っているところについて正副委員長で相談して4項目を決めた。ただやはり進めていく中で、もっと違うところがあるのではないかという意見が出てきたのが現状だと思っている。

したがって、正副委員長が決めることも必要かとは思いますが、やはり皆が納得して進めていかないと、また同じようなことになるのではないかとすごく心配している。

佐々木委員

いずれにせよお金はかかる。調査とか何かやろうと思えば。お金をかけない提言や要望となるとあまり反応もよくないことになるので、その辺のかけんが非常に重要となってくる。

先進地視察や現場の声を聞くとか、今いろいろ出た。僕はテーマとして二つ言った。給食費無償化とコロナ禍だからこそ大変な家庭への支援策としてどういうことができるか。どちらも現場の家庭の声を聞いてみるのが一番大事だと思うので、その上でできること、できないこと、どこまでできるかといった調整を議論しながら要望なり提言なりということになるのだろう。まずは現場の実態を、執行部では調査できない部分だと思うので、我々のスタンスである現場力をまず働かせて、次の提言につなげていくのが基本的な進め方ではないか。

村武副委員長

最初に四つの項目を決め、その中から二つ要望を出させていただいた。あと二つ、子育て世代包括支援センターの機能充実については、視察で何か所か意見を聞いた。子育ての地域支援についてはまだそれほど調査してなかったように思うのだが、どちらにしても、それから先の議論まで踏み込んでないので、それを進めていってプラスアルファのものにするのか、それともこの二つはやめて、今提案していただいたものに取り組むのか、決めたほうがよいのでは。

小川委員

澁谷委員が言われた、浜田市の貧困家庭の状況というか、22、23%が準要保護だと。そのあたりの声が、実際にその方たちが今の子育て世代のそういう家庭、生活保護を受けられたり準要保護の関係を含めて、その実態は我々ではつかめないところがある。そうすると視察に行ったとしても、どこかでよさそうな子育て支援策をやっているものに対して、これはよいから取り入れようくらいのことになる。実際浜田市の厳しい経済環境の中で子育てしておられる方が何

を求めているかがすごく大事だろう。祝い金の関係が予算に絡む形で出たときに、田畑委員がこれでまた浜田の経済が冷え込むと言われた。例えば子育て支援の予算のために、ほかから予算持ってこないとならないとなると、雇用情勢や待遇改善などが進まなくなる、そういう相関関係もあるかと感じた。

担当課は子育て世代の現状はつかんでいると思うが、議員はつかむ機会が少ない。そこがつかめないと、本当に厳しい人たちがこうしてほしいという、小さいことでもそれを実現するのが我々の任務だと思っている。全国に発信できるようなすごいことを議会として打ち出したら注目は集めるかもしれないが、浜田市で子育てに日々苦勞している方が、こうしてくれたら助かるということがあるなら、そこに焦点を当てるよう、こちらがきちんと見定める作業が必要かと思う。裏返せば、個人情報との関係もあるので難しいかもしれないが、担当者はそこと接している。準要保護の方の実態や認定も含めてその作業をされている。そういうところとの意見交換なり、何らかの形でできないと、実態をつかまらずに頭の中で考えるとどうしても上から目線で、こうしてあげる、ああしてあげるみたいになる。それは実態とかみ合わないことになりかねない。こちらが把握できる環境が必要。議員が足を運んでつかんでこいといわれれば、皆でやってみることも必要だと思う。頭で考えてもなかなかよい知恵が出ないのが現状だと思う。そのあたりがネックだと感じている。

岡本委員

準要保護の部分と虐待の実態を執行部に聞いても、話が出ないのが実際だろう。本当はその部分なのである。前は要請があつて民生委員が地域に行つて調べるのだが、個人情報を言い出して、民生委員のかかわりをやめた。調べなくてよいと。それならどうするのかといえば、保護者が学校へ行つて話をすれば、準要保護になっていた。実態はわからないが、本当に正しい判断で準要保護がなされているかわからない。結局その部分は実際どうなのか。それが調べる対象だろうし、入り口である。実際にやっていかないと、給食費無料化なり、準要保護などの話にならない。我々に示してないものがいっぱいある。我々が提言するにせよ、こういう実態があるからこうすべきなのだという、実態を示せない。データに基づいて攻めない。その部分の正確な情報で出してほしいという話。そして我々がいろいろなところへ行つて調査することに基づいて次のステップになる。そうすると重くなる。難しいということになっていくと思う。

沖田委員

話を飛躍させると子どもの貧困の話かと思うのだが、これはなかなか表に出てこない問題だと思っている。コロナ禍の影響によるものなどある。私の世代は子どもが大学や専門学校に進学する年回りであるが、いろいろな人から聞くのに、コロナ禍でやはり所得が下がり進学を断念する親が増えてきているらしい。正確な数字はもちろんつかめないので、あくまでその人たちの肌感覚での話だが。な

ぜ奨学金を使わなかったのかと聞くと、県の奨学金は6月に出る。入学金は4月や、もっと早いところだと内定が決まった時点で払うという学校もある。政策公庫や金融機関でも融資をしているが、それも受けられないため進学を諦めざるを得ないという実態が少数派だがいる。誰でも親としては貧困だと言いたくないのに、我々議員がそれこそ上から目線で「どうか」と聞いたら、そんな無礼な話はないと思うくらい、貧困問題はいたたまれない話だと思う。

3年前だったか僕らは足立区に子どもの貧困問題について視察に行った。先進的な取り組みだったと思うが、やはり把握しきれない部分がいっぱいあるのだろうと思う。そこも含めて、子どもの貧困、言葉がよくないのだが深い問題である。

この給食費無償化も準要保護というくくりになっているが、この名称はどうなのかという思いがあり、あえて給食費無償化を書かせてもらった。なぜこれを準要保護などというネガティブな言葉でくくるのか。無償化と言ってあげたほうが親御さんもよほど楽ではないかという思いもある。

岡本委員

進学に対して貧困という言い方は少し間違いだと私は思う。沖田委員がいろいろ聞かれたのも実態としてはあるのだろう。ただその中でどういう手当ができるのかを研究していかないといけない。6月まで出ないから諦めるのか、何か手当ができないか研究してみようというのが我々のポジションである。実態をとというのはそのこと。そこを前向きに考えていただきたい。よいことを言ってもらった。ではそこにコロナの影響で課題があるのではないかと思った。

澁谷委員

学校現場ではよくある例で、学校給食だけが1日の栄養だという子どもがいる。定時制高校では夕方に食べ物が提供されていたが、なぜそこまでするのか聞くと、1日の栄養がそれしかない子があるので提供しなければいけないのだと。そういうことが僕らの知らないところで結構ある。今は小学校区に一つくらいは子ども食堂がなければならぬくらいの時代になっているのだろう。自分が子育て世代のときは我田引水になると思って議会では一言も子育て支援について言ったことがなかったが、自分の子育てが終わったからようやく言えるようになった。一番大事だと思っているので子育て支援の必要性を強く言いたい。

今までは3歳児以上の保育料無償化が6千万円あったので、その6千万円を子育て支援に使ってほしいとこの半年間ずっと言ってきた。今回一応過去のを拡大したとは言え6,200万円はやっていると言ってきた。だから今度何か提言しようと思うとその財源をどこから持ってくるかが提案できないと無責任かと思う。財源の手当てについてもある程度言わないと、執行権がないものとしては無責任と感じる。

柳楽委員長

皆の話を聞きながら思ったのが、やはりコロナの中でもそうなのだろうが、経済的にも厳しい家庭も増えている中、貧困問題はすご

佐々木委員

く大事な問題で、学ぶ機会もなかなか確保できなかつたり、それがネグレクトなどにつながるなどいろいろなところに影響してくるので、そこは考えていったほうがよいのかと思った。

沖田委員の話に出ていた、困っておられるのはおそらく奨学金と入学金だと思う。2年くらい前、これも高等教育無償化で大学に行きやすい政策が国主導でできていて、入学しやすい制度に変わりつつあるが、それにしてもまだ言われるような方はおられるので、そこに県や市が加担して何かしら支援ができないか要望や提言するだとか、そういうレアケースを誰に聞くのかも含めて捉えながらやっていくのも我々の使命かと思った。

沖田委員

入学金については恐らく国が多少支援を進めているはず。それをご存じでないのか、それを充ててもだめなのかよくわからないが。

広報やホームページなどで、本当に困っている人はよく調べるのだろうが、やはりないと言われる。ただ、そこまで一歩踏み込んでというのはわからない。

しかし一番多いケースは、簡単に借りられる利の高いものを借りて、その返済のために家族がアルバイトをしたり。ただ、今はコロナ禍でそのバイト先がなくなっているのも現実である。それが長引けば長引くほど所得も下がってくるので、そこに手当てとなると財源がないと無理なのだが、例えば奨学金の一時立て替え制度などがあるだけでも、何人かの子どもは救えたのかと思う。

岡本委員

ホームページがわからない、私もどちらかといえばその部類。だから相談窓口をしっかりと改善していこう、充実していこうと言っている。そこが我々の新たな課題、提案である。だから実態を調べていく。要はアンテナを張っていけば必ずそこにかかってくるものについて、少し深掘りして聞いて帰ってくる。そこにこういう問題が起きてないか、我々議員はどういう形でかわり、支援して、そのことについての充実を図っていくのかを提案する。そうするべきではないか。

小川委員

共通しているのは、我々がこの現状を調べようではないかということ。

P T A会長や役員の方は実態をつかんでおられるし、子ども食堂も浜田市内に今1、2か所あるのか。そこに来られる方から幾らか実態をつかんでおられるだろう。校長先生なども現状を日々目の当たりにしているだろう。そういうことと議会が離れ過ぎて、適切な対応が取れてないのでは。校長先生などから話を聞くのもよいかと。そういうことがもし課題としてあるなら、個人や委員会としても話が聞けるところを回るとか。校区ごとに子ども食堂があってもよいというなら、それをつくる人がもしあれば、どういう条件が必要なのかと一緒に考えるなど、本当に困ったところに手が届くような浜田市の政策をつくっていくことが課題だと感じる。レアケースと言われるがいっぱいあると思う。そこをつかむ努力、それが政策をつ

柳楽委員長

くるときの出発点ではないか。そのための調査活動、所管事務調査で資料を求めることも必要だが、我々自身の体を使った調査活動で、もっとつかむ必要があると感じた。

奨学金についても多分中学校から高校へ上がる時や高校から進学する時期に、数種類の資料は渡されていると思う。ただ、それを保護者がどこまで見られるかもあるし、それを見ても、給付なら受けやすいかもしれないが、貸与の場合は返さないといけないので、受けようというところまで行かないこともあると思う。そういった相談をどれだけ親身に受けてあげられるか、そういう体制も重要かと思う。

先ほどから皆が言われるように、実態がどうなのかは調べてみたい。これが直接貧困と関係あるかはわからないが、例えば学校や保育所に来ている子どもがおうちから、多分きちんと風呂に入れてないのだろうという話を聞いたことがある。そういう実態は教師や保育士はわかっておられるので、話を聞かせていただくと実態がよくわかるのかと思う。

岡本委員

直接行っていきなりはなかなか難しいと思う。当委員会ではコロナという位置づけで、その後の調査をしてみたい。したがって我々がこと細かくアンケートに入れて送り、答えてもらう。それをもとに少し話を聞かせてほしいという形が、現状を把握しやすい。そういうことをやってみないか。細かい設問のアンケートをやると、入り口が見える気がする。

澁谷委員

給食費の滞納というのが出ている。これは学校現場ですごく問題になっている。現金で徴収しているときは皆100%払うのだが、カード支払いや口座引き落としにすると払わない人がたまっていく。小学校で学校給食費を払わなくても子どもたちは給食を食べるから、親が学習する。給食費を払わなくても子どもは給食を食べられる。6年間で三十数万円、それを払わなくて済む。中学校へ行っても払わない。兄弟とも払わない。そうなるとものすごい金額なのだが、教育委員会に聞いてもごまかすのだが、学校現場の先生にとっては子どもたちに教えるのと同じように給食費の徴収はすごくエネルギーがいる。学校から先生がその家庭まで行って給食費のことをお願いする。事務職員と一緒にやるとか。すごくマイナスのエネルギーが発生している。口座引き落としにする理由は、いつ行っても会えないので何度も通うことになるから。口座引き落としで簡単にしてくれという意見が必ず出る。そうしてやってしまうと大変なことになる。

沖田委員

給食費の問題は確かにかつては評議員という制度があり、それが負担だとして旧浜田市内は最後の砦が東中学校だった。私が会長のときに口座振替に変えてほしいという圧倒的な要望があり、口座振替に変えた。今のところ滞納はないというのが学校発表である。

岡本委員

私もPTA役員や監査などいろいろやっているもので、今の状況が

違ってきているのかと思っている。この部分にスポットを当てて実際給食費の実態はどうか、滞納はどうか、何が原因か、準要保護はどういう形で賄われていくのか、それも調査する必要がある。だからこのことについてスポットを当ててみようではないか。我々が言うのだから、執行部も少しはグレーになってくるかもしれないし。我々が実際に政策的なものを提言するなら何がよいのか、やってみようではないか。

柳楽委員長

この給食費の問題はこの委員会の所管なのだろうか。限定すると難しいのかと。

岡本委員

私が言いたいのは、こういう状況が起きているので、実態はどうか知りたい。総務文教委員会が所管だから私は知らないではなく、子育ての中にどういう影響を及ぼしているかということ。

柳楽委員長

多分、給食費無償化についてこの委員会から提言するのはふさわしくないのでは。

岡本委員

私は調査がしたい。アンケートを求めるわけで、項目に入れて調べていけばよいではないか。

柳楽委員長

どのように理解してよいかわからないから皆に確認するのだが、先ほどから給食費の無償化の話も出た。この委員会で給食費の無償化についての提言がふさわしいのかどうか。子育て支援の視点からすればあるのだろうが、給食費というところで、管轄的にどうか。

岡本委員

これは初めから、給食費は大きな問題だと言っているのだから、私は調査をスタートとしてやらないかと言っている。

柳楽委員長

岡本委員の言われることはよくわかる。どうしても子育てをする中で給食費を払われること自体も負担になる部分があるだろう。そういう意味合いでは実態がどうか知る必要はあると思う。

皆はどうか。今結構お話しいただいたと思う。貧困問題であったり、子育てにかかるお金も大変だという話もあった。貧困問題を取り上げることに皆賛成なのか。

岡本委員

貧困問題を取り上げるというよりも、生活にどういう影響を及ぼしているのかを調べようという話なので、貧困に限定するともっと深いことになる。影響ということに限定しておかないとこの半年以内に求めていけない。今実際コロナという位置づけはタイムリーである。現状がそこにあって、それがどう変化してきたのかが見たいわけである。これを来年、再来年を見てどうするのかという話。今だからできるのだと私は思っている。そういう意味で、進め方として貧困も含めてだが、まず実態調査をしようというところでどういう手法を取るか。アンケートという手法もあるし、視察に行つて情報収集をすとか、そういうことをやっていけば何か見えるのではないか。入り口で提案をしようかということ。貧困ももちろんある。そういうことで整理をお願いします。

沖田委員

テーマについてだが、少子高齢化は浜田市が抱える最大のテーマ

だとしてよく市長が言われるが、少子高齢化の原因は一体何かといえ、もちろん一概に言えないが、子育てしづらいから子どもをつくらないというのが一つのキーワードになっていると思っている。

私たち40代がこれだけ子育てに苦しむ姿を20代が見て、果たして子どもをつくることに希望を持てるのか、という疑問もある。

その一つ一つを取り除いていこうというのが話し合いのテーマだとするならば、貧困という言葉がどうなのかはあるが、子育てのしにくさを取り除いていこうというのは少子高齢化のテーマではないか。

田畑委員

浜田市の平均収入は270万円。それで子どもを二人、三人と言ったって無理な話である。そういう現状を解消しないととても子育てという域にいかない。三隅のリハビリテーションカレッジにいた子の話だが、母子家庭で育ち、授業料140万円のリハビリテーションカレッジで4年間奨学金貸与を受け、返済に20年。だから私は42歳まで借金を返さないとならないので、絶対裕福にはなれませんが、とはいえ手に職をつけるには専門学校や大学に行かせてやりたい。お金を借り、20年返済、22歳で卒業するからおおむね40歳を超えるまで返済。広島の理学療法士の賃金ベースでいくと、そう易しいものではない。その間には結婚するだろうし子どもができるだろうし、いろいろある。浜田でそれを考えると、現実には270万円という数字が出ているから公務員と200万円違う。民間企業は大変厳しい環境にある。

貧困という言葉は、後からついてくるならよいが最初に出たらあまり、前に進むにはよろしくない気がする。

給食費のことだが、一般質問した時に、大体保育料滞納が3500万円前後で、その1割、350万円前後が給食費の未納ということだった。5年間は市役所も追いかけるが、5年たつと時効になる。これから無償化の制度が浸透していくとおのずとそれが効いていくかもしれないが、そういう現状があるということはこの委員会は認識した上で話をしていかなければとあまりよくないと思う。

岡本委員

私は違う視点を持っている。生活が苦しいと若い人は言うが、私たち世代がもっと裕福だったかといえそうではないと思っている。私たち世代は親と同居していた。それがベースだと思っていた。今の世代は核家族である。だから家がある、電気代、車がある、そこへ裕福さを求めてどうなのか。そこだけで裕福でない、貧困だと言うのはどうなのか。生活をよりエンジョイしたいがためにそういう状態に持っていつている事実もあることをわかって、我々議員はそれも頭に入れておかないといけない。こういう環境があるのだと頭に置きながらやるべきである。

柳楽委員長

コロナ禍でどういった悩みを抱えておられるのかに対する調査は、数名の委員から意見があった。そのことについてはどうか。調査はやっていくべきということではよろしいか。

佐々木委員

アンケートだと割と書きやすいしわかりやすいと思うが、ただこ

これは非常にネガティブなことなので、アンケートは相手も答えが難しいのでは。本当なら保育所や学校のPTAの方々に、こういうコロナ禍で状況が変わった家庭の調査をしているがいかがだろうかというところで、少し集まってもらうような形が一番よいのだろうが、それも難しいであろう。簡単にできるといえばPTA代表者や、学校に聞いても学校はなかなか本当のことを言わないので、幼稚園の先生で話がしやすい相手など、できるところでやるしかないので、改まって表立ってやるとなかなか難しい。それをやることに価値があると思う。やり方は難しいかもしれないが、現場の保護者や先生、職員に聞くしかない。アンケートができれば一番よいが、現役PTAの方もおられるので、その辺から意見を拾ってもらうのも可能性としてはあるのでは。

柳楽委員長

沖田委員に聞きたいのだが、PTAの役員をされている方や学校の先生、保育士などに、個々の状況がわかるのか。

それでは1時間半経過してしまったが休憩を取りたい。再開は2時40分とする。

[14時 32分 休憩]

[14時 41分 再開]

柳楽委員長

委員会を再開する。休憩中に皆から話を伺う中で今後PTA連合会会長に、沖田委員から声をかけていただき、数名のPTA関係者と意見交換をする場を設けさせていただくようお願いしてみようということでよろしいか。

(「はい」という声あり)

それと、保育所などについては以前の子育てアプリのようにペアで数か所行って、意見を聴取するやり方で。

岡本委員

それぞれが行きやすいところで調査させてもらえないか。

柳楽委員長

自分が話を伺いやすいところに行かせてもらうというご意見があったが。

澁谷委員

まだ、保育園や学校、その他を検討してから。

柳楽委員長

ではとりあえず今日の決まり事としては、PTA連合会と。

村武副委員長

これも聞いてみないとわからないが、以前ひとり親の方たちから意見をいただいたことがあった。もしかしたら集まって意見を聞くことができるかもしれない。

柳楽委員長

今PTA連合会、保育所、ひとり親の方との意見交換も検討するとのことで、そのほかにもこういった方々の意見を聞いたほうがよいというものがあれば委員からまた提案していただきたい。

では子育て支援については以上で終わりたい。

2. その他

柳楽委員長

そのほかに皆から何かあるか。

(「なし」という声あり)
では、以上で福祉環境委員会を終了する。

(閉 議 14 時 46 分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ⑩